

# 現在の感染・療養状況及び今後の取組み等について

第67回（令和4年1月13日）  
新型コロナウイルス感染症対策  
アドバイザリーボード

資料3-7

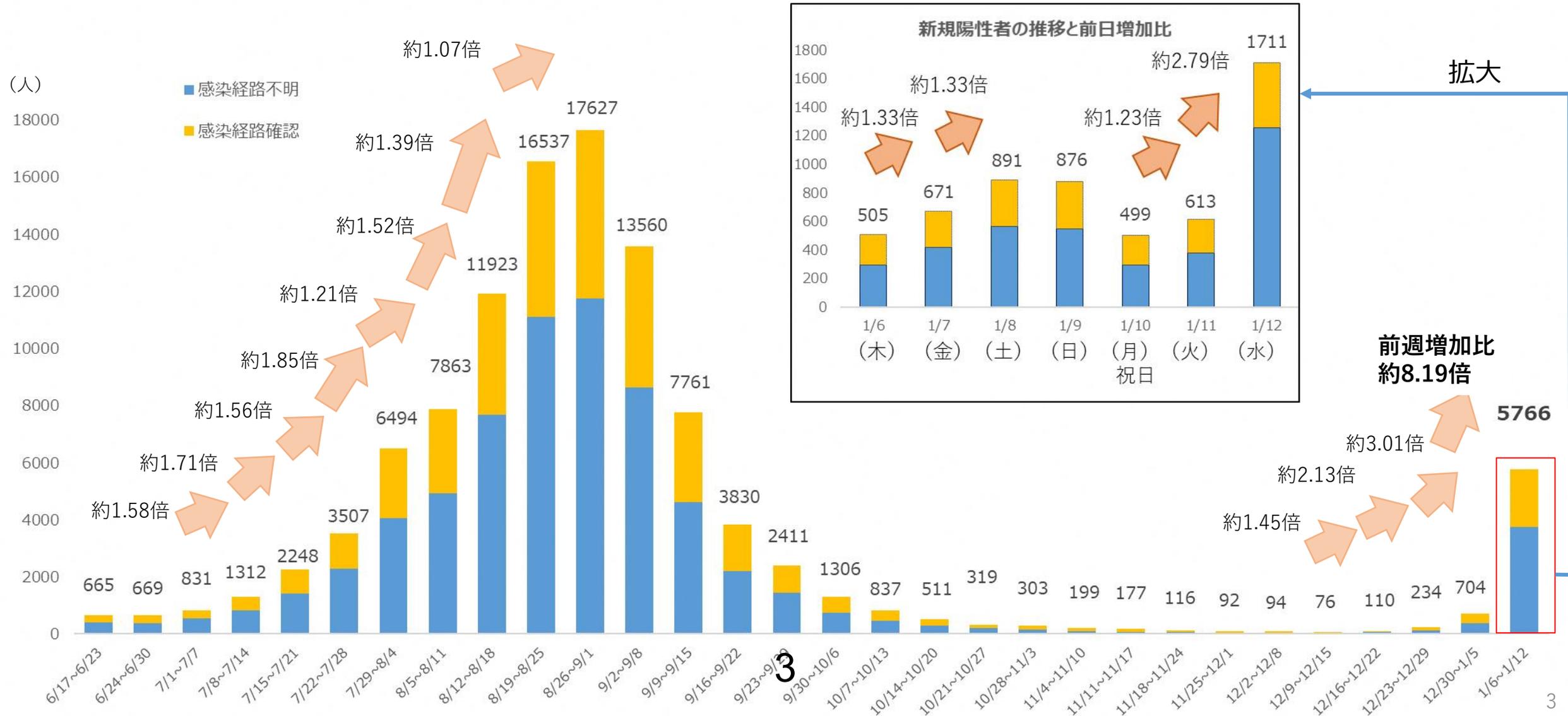
藤井先生提出資料

- |   |              |        |
|---|--------------|--------|
| 1 | 陽性者数等の推移     | P2~9   |
| 2 | オミクロン株陽性者の分析 | P10~12 |
| 3 | 感染拡大を踏まえた取組み | P13~19 |
| 4 | 入院・療養の状況     | P20~26 |

# 1 陽性者数等の推移

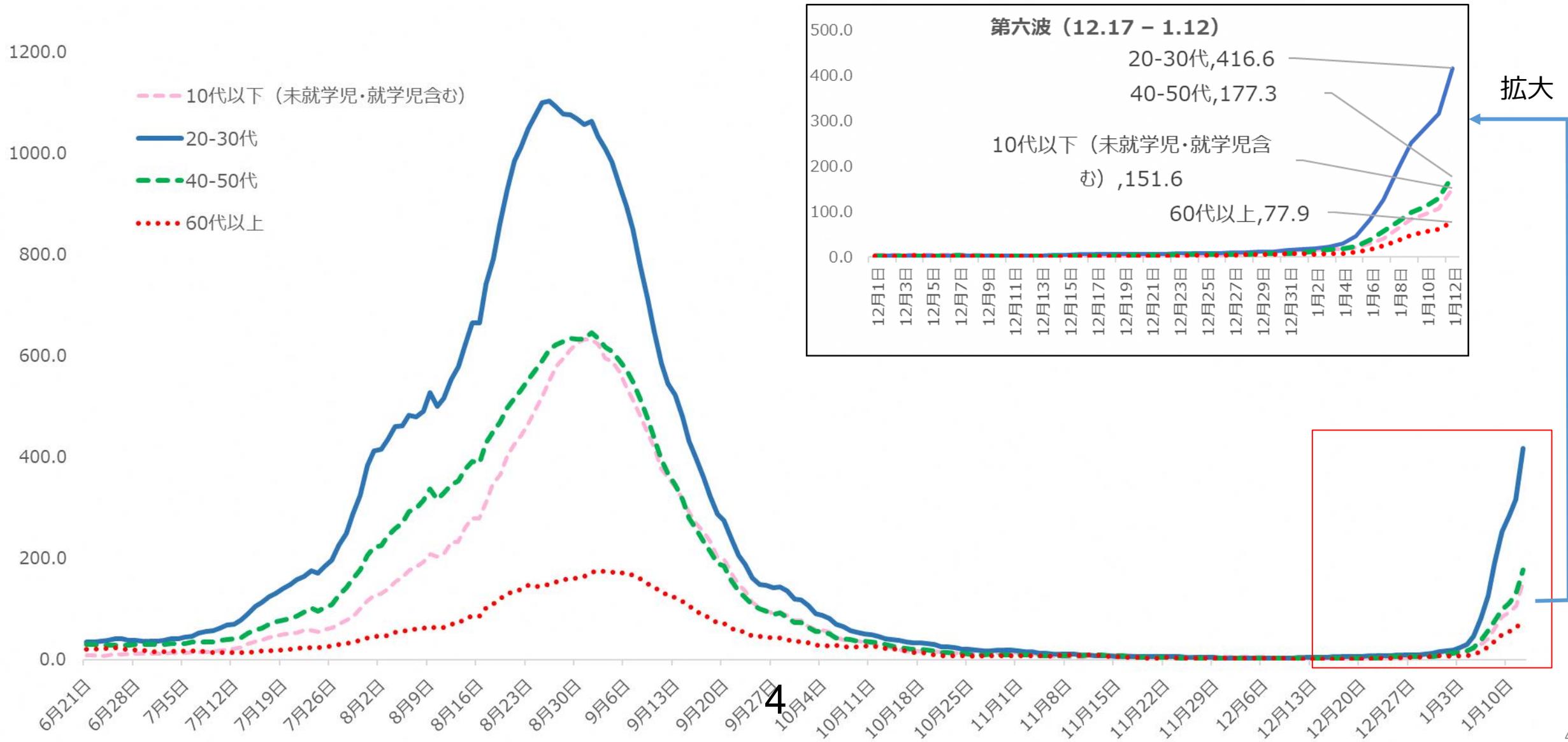
# 7日間毎の新規陽性者数（1月12日時点）

◆ 直近1週間は、過去最大の速度（前週増加比 約8.19倍）で感染が急拡大。（直近1週間は平均約824人/日）



# 年代別新規陽性者数（7日間移動平均）の推移（1月12日時点）

◆ 第六波では、第五波の始まりと比較して、20・30代を中心に各年代で新規陽性者数が急増。



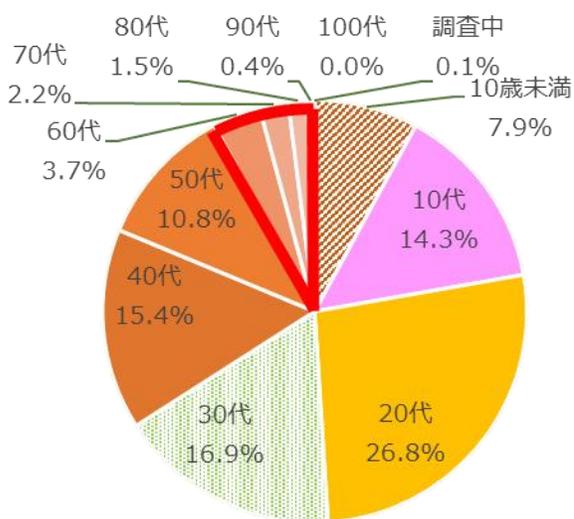
# 年代構成と感染経路（1月11日時点）

- ◆ 第五波と比較して、第六波では新規陽性者に占める60以上の割合が増加。
- ◆ 感染経路としては、施設関連（高齢者・児童施設）が第五波と比較してやや増加。今後の集団感染に注意が必要。

## 年代構成

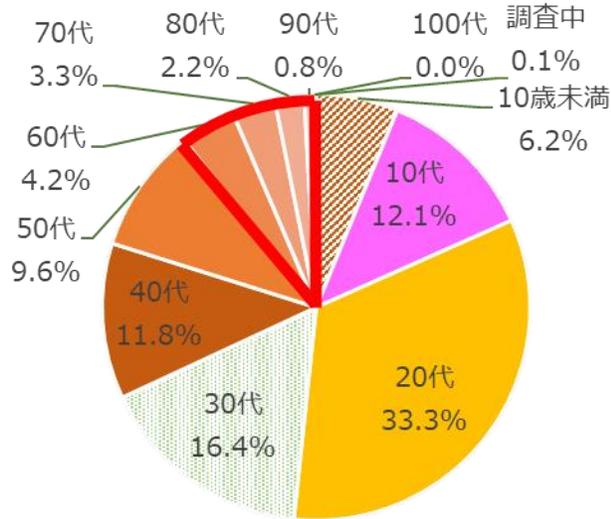
### 第五波(6.21-12.16)

100,891人



### 第六波(12.17-1.11)

5,089人

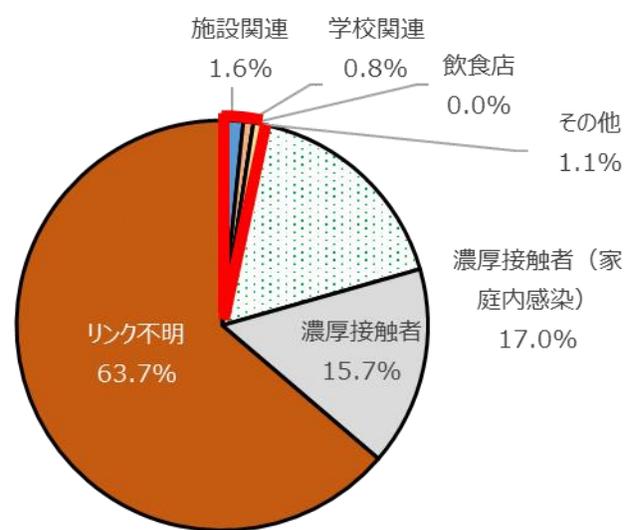


	第五波	第六波
30代以下の割合 (うち、10代以下の割合)	65.9% (22.2%)	68.0% (18.3%)
40・50代の割合	26.2%	21.4%
60代以上の割合	7.8%	10.5%

## 感染経路

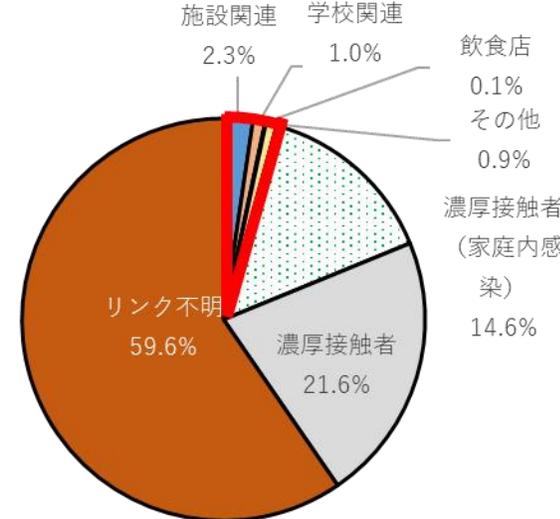
### 第五波(6.21-12.16)

100,891人



### 第六波(12.17-1.11)

5,089人



	第五波	第六波
施設関連	1.6%	2.3%
学校関連	0.8%	1.0%
飲食店	0.0%	0.1%
その他	1.1%	0.9%
濃厚接触者(家庭内感染含む)	32.7%	36.2%
リンク不明	63.7%	59.6%

# 第六波における陽性者のエピソード（1月10日時点）

◆ 直近1週間における陽性者のエピソードとして、帰省や会食（大人数での会食も複数確認）、初詣や成人式、人との集まり（カラオケなど）が急増。

## 陽性者の主なエピソード

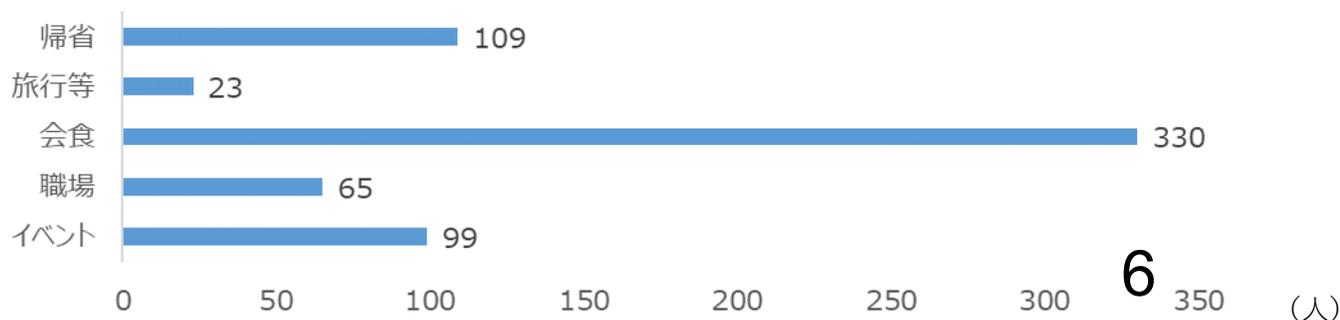
※新規陽性者への聞き取りにおいて把握した行動の中で、感染源となった可能性のあるもの

※施設クラスター等（医療機関関連・高齢者施設関連・障がい者施設関連・大学学校関連、児童施設関連）を除く。

注：重複あり

	エピソード	陽性者数（注） （12/27～1/3）	陽性者数（注） （1/4～1/10）
帰省	年末年始の帰省	10	109
旅行等	府外の旅行、他府県へ出張	3	23
会食	親戚や友人、同僚等との会食（忘年会・クリスマス会・カウントダウンパーティー・新年会など）、自宅での飲み会、夜の街での飲み会など	26	330
職場	職場やアルバイト先での接触（スペースの共有、飲食、車の同乗など）	10	65
イベント	初詣、カラオケ、成人式、合宿、演奏会・観劇・ライブ、スポーツ関連など	4	99
（参考）期間内の陽性者全数		459	3,810

<直近1週間（1/4～1/10）における主なエピソード>



# 「大阪モデル」警戒への移行（黄色信号点灯）について

## 【大阪モデル「警戒」（黄色信号）の指標の状況（R3.11.26より運用）】

モニタリング指標	警戒の目安	1月3日	1月4日	1月5日	1月6日	1月7日	1月8日	1月9日
①直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数	35人以上（※1）	5.08	5.91	7.99	13.13	19.91	2日間で新規陽性者数が合計約1,450人を超過した場合、「35」を超過	
②病床使用率（重症・軽症中等症ともに確保病床数）	20%以上	8.0%	9.1%	8.5%	9.8%	11.6%		
③重症病床使用率（府定義） （災害級非常事態の確保病床数）	10%以上	0.3%	0.3%	0.3%	0.2%	0.2%		
④新規陽性者数の前週増加比	4日間連続で1を超過	2.59	2.64	3.01	4.57	5.75		

- ステージ移行については、指標の目安の到達状況を踏まえつつ、感染状況や医療提供体制の状況、感染拡大の契機も十分に考慮し、専門家の意見を聴取したうえで、対策本部会議で決定する。**  
（※1）新規陽性者数が600人（注）に到達した時点における「直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数」（ただし、前週増加比2倍（過去の波の感染拡大当初の増加比）を想定）  
（注）「次の感染拡大期における保健所業務の重点化について」（第59回対策本部会議資料4-2）におけるフェーズ2（感染拡大期）の新規陽性者数に基づく
- （※2）感染拡大傾向（注）において、いずれかの指標が「警戒の目安」を満たした場合、即時に「警戒」にステージ移行し、対策本部長が府民等へ感染リスクの高い行動回避の呼びかけを行う。（感染拡大傾向にない場合には、「警戒」へのステージ移行については、対策本部会議で決定）**  
（注）新規陽性者数の前週増加比が過去4日間連続で1を超過している場合とする
- まん延防止等重点措置又は緊急事態措置の要請については、感染拡大速度や規模、病床ひっ迫状況等を踏まえ、対策本部会議において決定する。**
- 「まん延防止等重点措置」・「緊急事態措置」適用区域に指定・解除される場合は、対策本部会議を開催し、ステージ移行の要否を決定する。

○1月8日・9日の2日間の新規陽性者数が合計で約1,450人を超過した場合、「**①直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数**」が**目安「35人以上」を超過。**

○現在、1月5日に244人、6日に505人、7日に676人と連日増加しており、1月7日時点の新規陽性者数の**前週増加比が過去最大の約5.8倍**（1/7時点）となるなど感染が急拡大中であることから、**数日中に上記目安に到達する可能性が極めて高い。**

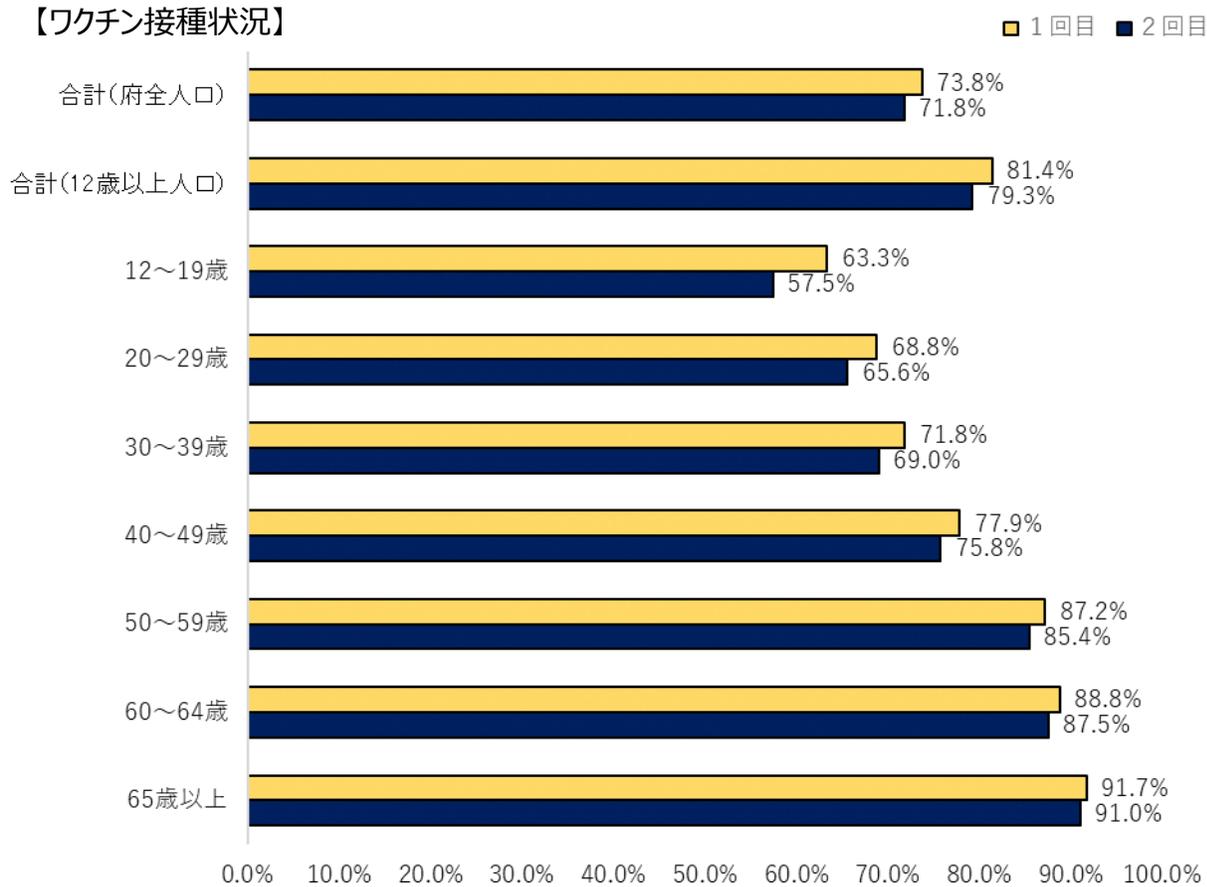
**⇒ 1月8日より「警戒」に移行（黄色信号を点灯）**

※「警戒」移行に伴い、高齢者施設等の従事者への定期検査を再開（1月13日）

# 年齢別ワクチン接種率及び新規陽性者数

- ◆ 1月（1/1～1/2まで）に判明した新規陽性者のうち、2回接種後14日以降に陽性となった者は36名（28.3%）。
- ◆ 60代以上新規陽性者のうち、2回接種後14日以降に陽性となった者が50.0%。20.30代を除く年代でも増加。
- ◆ 12月～1月に判明した新規陽性者のうち、3回接種後に陽性となった者は2名。
- ◆ ワクチン接種が進むことで、2回接種後14日以降の陽性者数が増加している可能性や、ワクチンによる感染・発症予防効果の低減の可能性がある（各研究結果において重症化予防効果は比較的高く保たれていると報告されている。）

【ワクチン接種状況】



※府民全体のワクチン接種率（状況）：1月4日にVRSデータより算出した数値  
 ※一般接種及び医療従事者向け優先接種の実績に基づく  
 ※39歳以下・不明の接種率は、接種対象の12歳以上の人口で算出

新規陽性者における2回接種後14日以降に発症した者の割合の推移（判明月別）



1月判明	新規陽性者数	2回接種後14日以降発症		接種なし・不明		その他 (1回接種済または2回接種後14日未満や発症日等不明)	
		陽性者数	割合	陽性者数	割合	陽性者数	割合
20・30代	50	10	20.0%	27	55.1%	12	24.5%
40・50代	43	17	39.5%	17	39.5%	9	20.9%
60代以上	6	3	50.0%	1	16.7%	2	33.3%
総計	127	36	28.3%	61	48.4%	29	23.0%

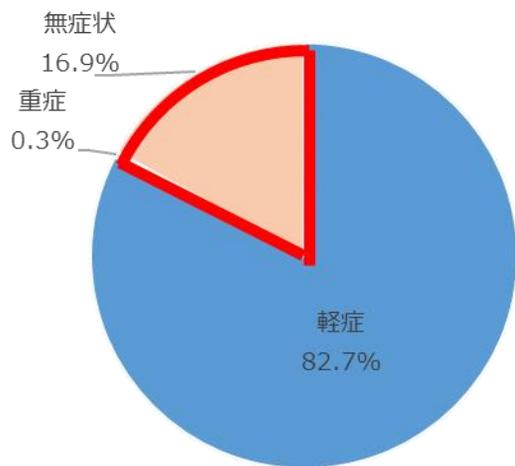
8 ※1月陽性判明のうち、3回接種後に発症したものが1名あり。  
 ※陽性者のワクチン接種状況及び発症日は保健所による聞き取りやHER-SYSデータに基づく（1月2日判明時点）  
 ※無症状病原体保有者は報道提供日-1日を発症日とした。

# ワクチン接種歴別の陽性判明時症状・感染経路（1月2日判明時点）

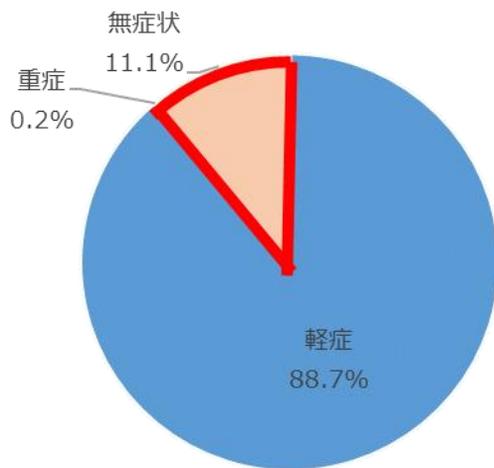
- ◆ ワクチン2回接種後14日以降に陽性となった者は、未接種者に比べ、無症状病原体保有者（陽性判明時）の割合が高い。  
また、濃厚接触者やクラスターによる集団検査で感染が確認されるケースが多いことから、ワクチン接種による発症予防効果により、本人が症状に気づかない可能性が考えられる。

## 陽性判明時症状

ワクチン2回接種後14日以降  
（6月1日から1月2日）



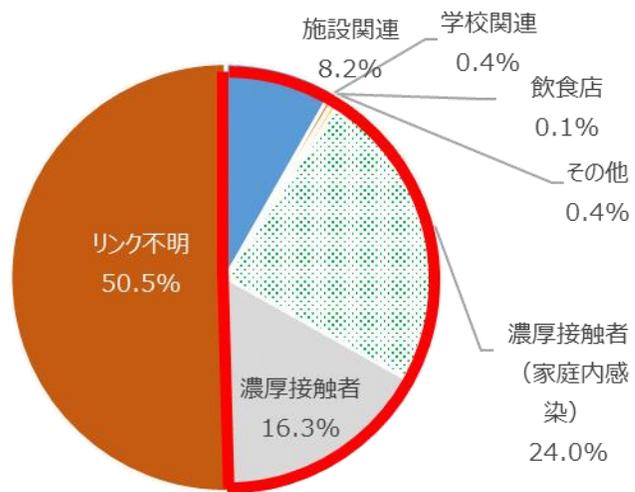
ワクチン未接種  
（6月1日から1月2日）



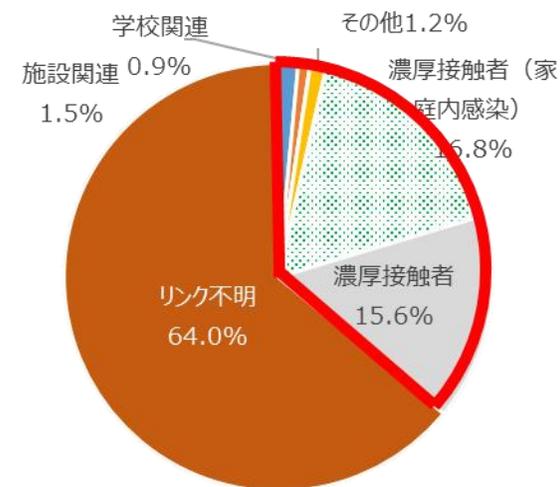
※症状不明事例除く

## 感染経路

ワクチン2回接種後14日以降  
（6月1日から1月2日）



ワクチン未接種  
（6月1日から1月2日）

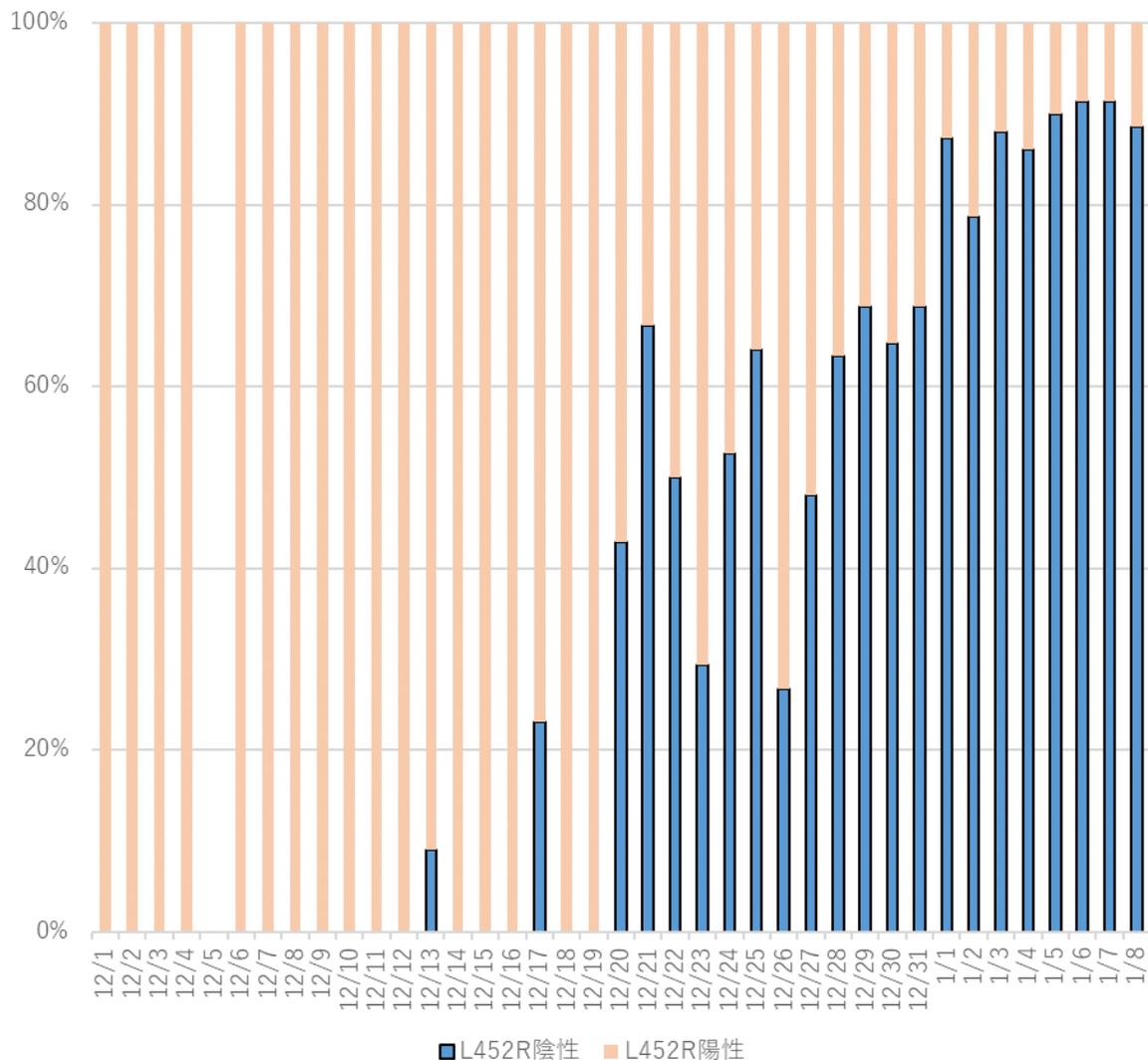


## 2 オミクロン株陽性者の分析

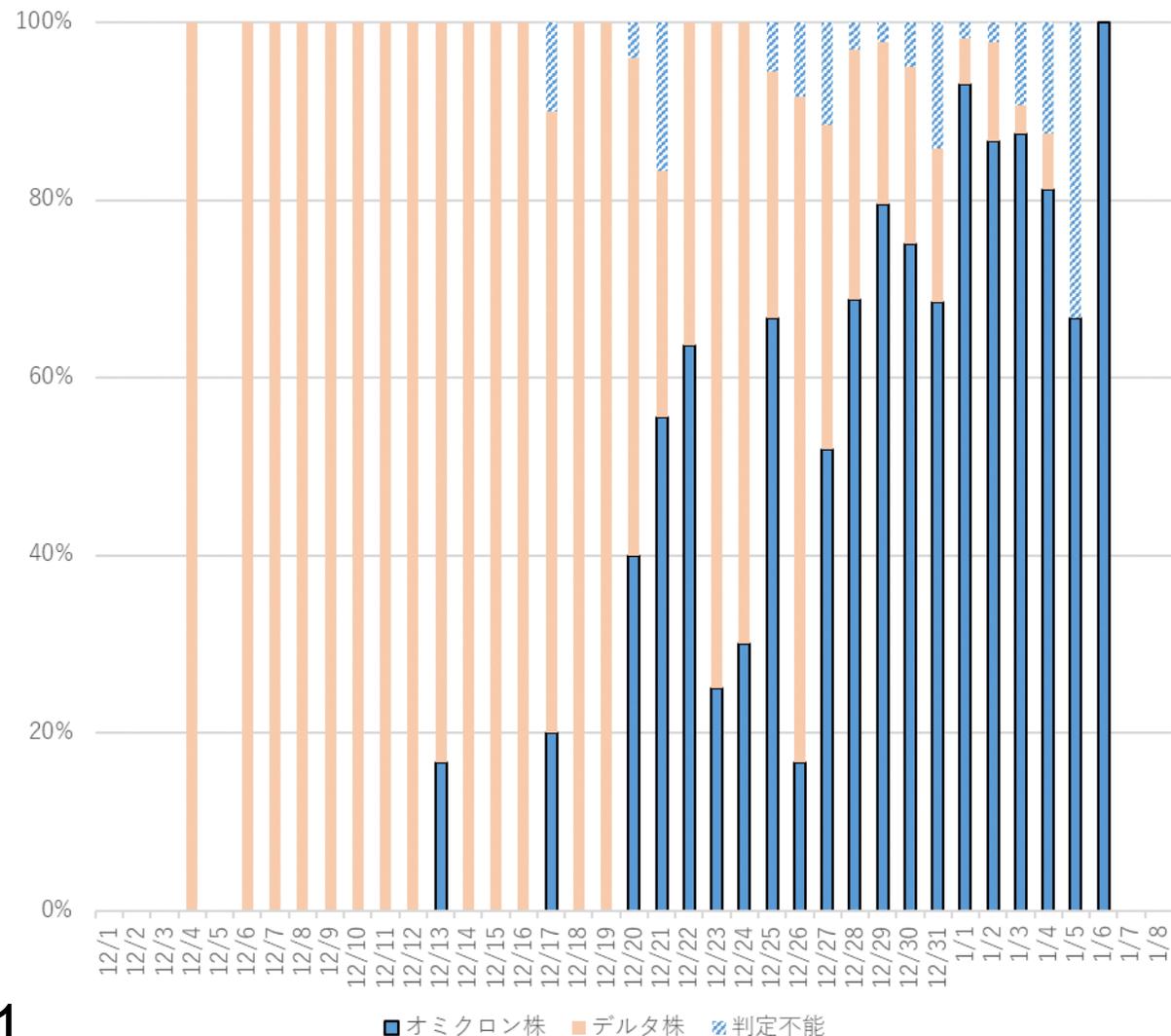
# 大阪府におけるオミクロン株への置き換わり状況

◆ 直近で実施したL452R変異株PCR及びゲノム解析結果の内訳では、L452R陰性及びオミクロン株の割合が80%以上。

<L452R変異株PCR検査（検体採取日別）>



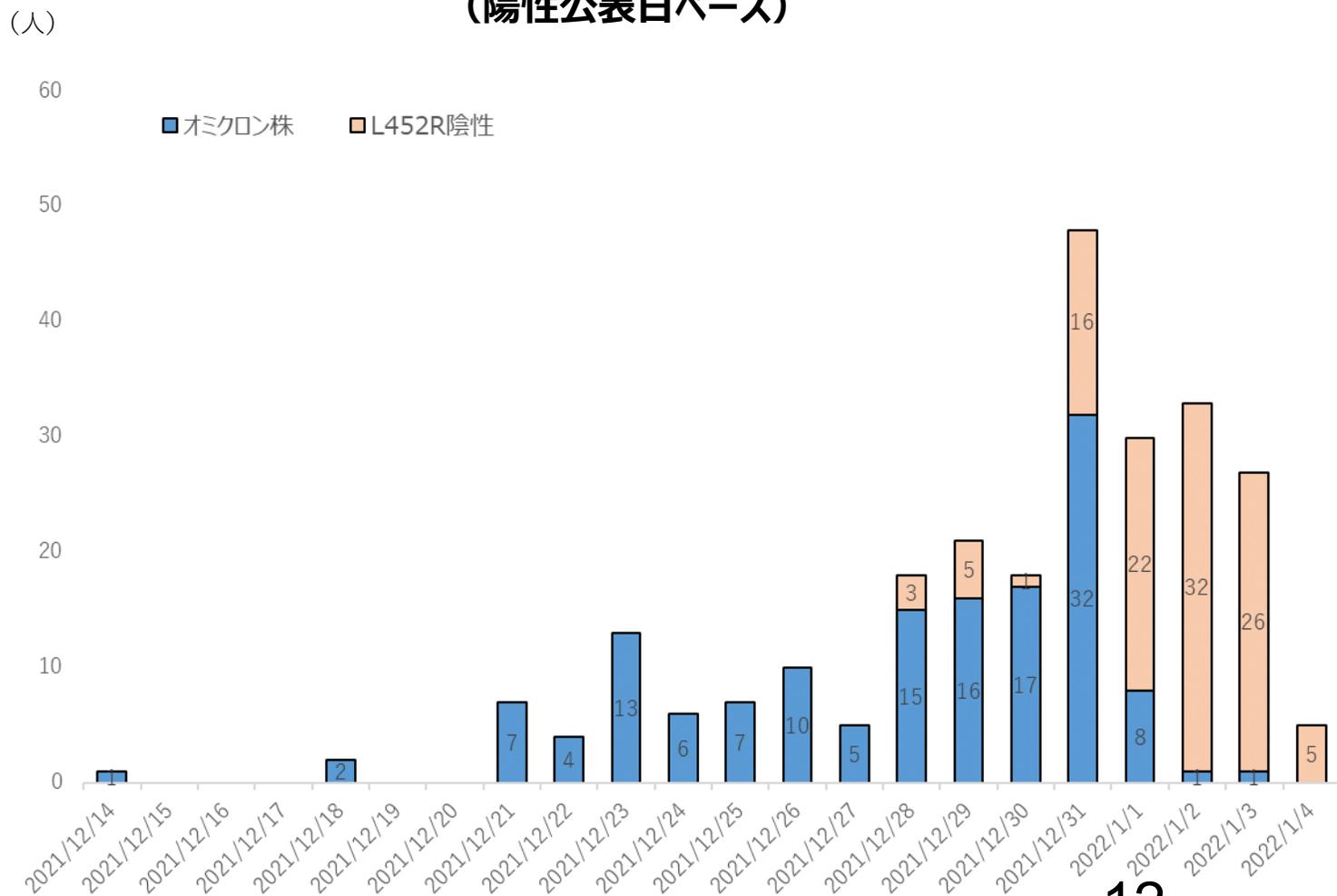
<ゲノム解析結果（検体採取日別）>



# オミクロン株陽性者の発生状況とワクチン接種状況（1月4日時点）

- ◆ オミクロン株陽性者のうち、海外渡航歴等なしが約9割。  
また、ワクチン2回接種済の陽性者が半数以上を占めている。

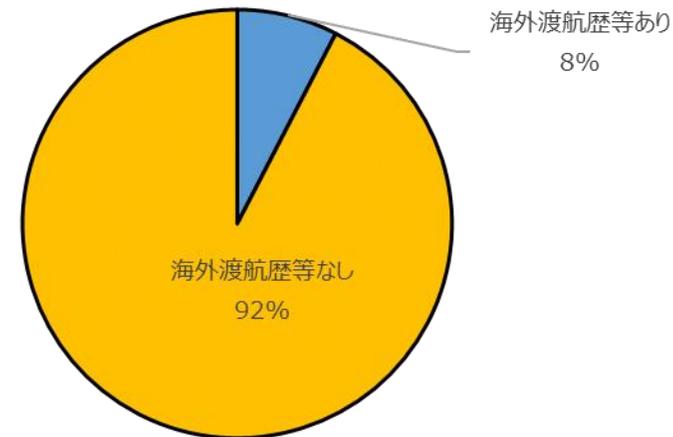
オミクロン株陽性者等の発生状況  
(陽性公表日ベース)



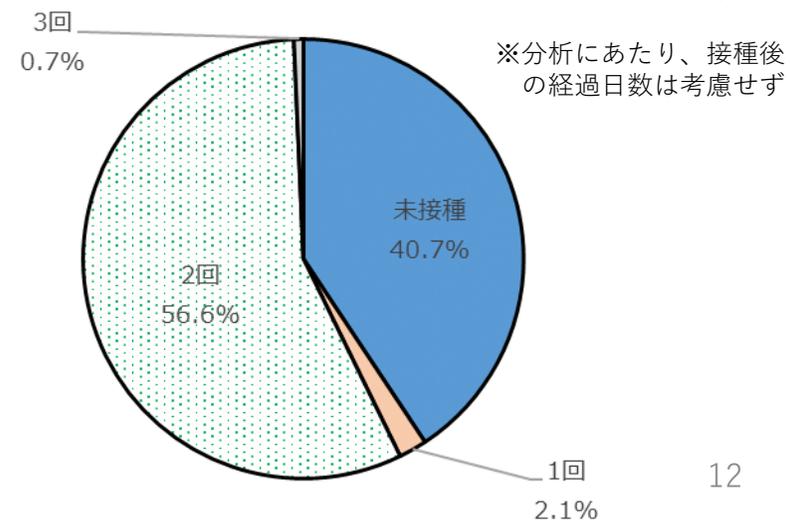
(注) ゲノム解析により今後、オミクロン株陽性者が増加する可能性あり

12

オミクロン株陽性者の海外渡航歴の有無 12/14から1/4 145名



オミクロン株陽性者のワクチン接種状況 12/14から1/4 145名



12

### 3 感染拡大を踏まえた取組み

# 軽症中等症病床の運用について

◆ 今後の感染急拡大に備え、軽症中等症病床について、1月6日付で「フェーズ4」への運用移行を要請。

## ● 軽症中等症病床フェーズ4（2,700床）への運用移行要請

- 今後も感染拡大が続いた場合、**約2週間後にフェーズ4の病床数（2,700床）に達する可能性があるため、1月6日付で、フェーズ1からフェーズ4への移行を要請。**

※【参考】軽症中等症の運用病床数（1,950床：1月5日現在）

### 【参考】病床確保計画におけるフェーズの考え方

○フェーズ移行の準備期間を概ね2週間とし、移行基準を設定。

○**フェーズの移行については、入院患者数を基本に、感染予測と病床運用率等を踏まえ総合的に判断。**

運用フェーズ	病床数	フェーズ移行の判断基準となる入院患者数	
		感染拡大時	感染収束時
フェーズ1	1,300床	およそ780人（病床数の60%）以上 ⇒フェーズ2 移行準備	—
フェーズ4	2,700床	およそ1,890人（病床数の70%）以上 ⇒災害級非常事態移行準備	およそ1,680人未満 ⇒フェーズ3 移行準備
災害級非常事態（フェーズ5）	3,100床	—	およそ1,890人未満 ⇒フェーズ4 移行準備

# オミクロン株患者の増加に伴う今後の医療・療養体制等について

- ◆ オミクロン株患者（L452R陰性患者含む）の増加に伴い、患者の全員入院対応や、濃厚接触者の全員宿泊対応を見直すとともに、自宅待機者への検査体制や宿泊療養の体制を整え、今後の感染拡大に備えることとした。（1月5日）

## 1. オミクロン株確定患者・L452R陰性患者について、入院必須の取扱いの変更

### <現在の病床運用>

- ・無症状・軽症患者であっても、L452R陰性となった場合には個室での対応を実施。

病床運用フェーズ	個室管理可能な病床数	運用率80%の場合の病床数【A】
現状（フェーズ1）	約750床	約600床

- ・新規オミクロン患者（L452R陰性患者含む）が1日100人程度発生すると約4日間で個室の運用率80%に到達
- ・全員入院を続けた場合に、3週間後には病床使用率が50%を超えることが想定される

### <今後の対応>

- これまでの「府における入院・療養の考え方（目安）」をもとに、65歳未満で軽症・無症状や、重症化リスクのない患者については原則宿泊療養とする。（やむを得ない場合は自宅療養も可とする）

# オミクロン株濃厚接触者への対応について

◆ オミクロン株患者の増加に伴い、濃厚接触者の全員宿泊対応を見直し、1月5日より自宅待機を基本とした。

## 2. オミクロン株確定患者・L452R陰性患者の濃厚接触者対応の変更

<現在のホテル運用> R4.1.4時点

宿泊療養施設	施設数	室数
運用施設	8	2,104
待機中施設・新規開設施設	10	2,424
オミクロン株濃厚接触者専用施設（府運営）	13（うち稼働10）	4,366（うち稼働2,726）
帰国待機者向け国への提供施設（国運営）	4	1,348
計	35	10,242

今後、宿泊療養患者・濃厚接触者が急激に増加見込み

<今後の対応>

- 濃厚接触者・帰国待機者用ホテルを陽性患者用ホテルに切替え（一部の濃厚接触者用ホテルは残置）
- あわせて、全ての濃厚接触者をホテル待機とする運用から自宅待機を基本とする（保健所が判断した場合には宿泊待機も実施）
- 濃厚接触者の自宅待機者に対し、オンライン診療機関と連携した当面の検査体制を構築。

## 3. 宿泊療養施設の運用引き上げ

<今後の対応>

- 上記の対応を踏まえ、今後宿泊療養施設のニーズの増加が見込まれることから、宿泊療養施設の運用を最大フェーズ（10,000室）に引き上げ。

# オミクロン株の感染急拡大に伴う今後の医療・療養体制等について

◆ オミクロン株の感染急拡大を踏まえ、今後、想定を上回る受入病床・宿泊療養施設のひっ迫が想定されるため、療養体制の最適化を図り、患者への治療機会を最大限確保。（大阪府新型コロナウイルス感染症対策協議会（書面開催）で同意（令和4年1月7日））

概要

- ① オミクロン株の感染急拡大を踏まえ、入院・宿泊療養等の対象を見直し
- ② 中等症以上や重症化リスクが高く症状のある方を入院治療の対象とし、コロナ治療を終えた患者は、宿泊療養へ速やかに切替
- ③ 宿泊療養については原則40歳以上の患者を優先するとともに、自宅における療養体制を強化

## 【府における入院・療養の考え方】 第六波における対応（病床のフェーズ4以上）

※ 今後の状況に応じて随時運用を見直すこととする

### 【入院】 ▶ 以下のいずれかに該当



- ・中等症Ⅰ（SpO2が96未満又は息切れや肺炎所見あり）・中等症Ⅱ（SpO2が93以下）以上
- ・65歳以上及び重症化リスク（BMI30以上や基礎疾患等）があり、**発熱が続くなどの症状がある患者**  
（外来等で初期治療や経過観察が可能な患者を除く）
- ・中等度以上の基礎疾患・合併症により入院を必要とする者や、保健所や入院FCが必要と判断した者  
※上記以外にも免疫低下や妊婦など、感染症法政省令に基づく対象者あり

中和抗体治療など  
コロナ治療を終え  
症状が安定した患者は  
宿泊療養に切替え

### 【宿泊療養】 ▶ 40歳以上の患者で入院を要しない者は原則宿泊療養



- ▶ 40歳未満については、重症化リスクのある患者（BMI25以上や基礎疾患等。無症状含む）や、自宅において適切な感染対策が取れない患者等を優先
- ▶ 中和抗体治療の対象となる患者や重症化リスクのある患者は診療型宿泊療養施設を優先

### 【自宅療養】

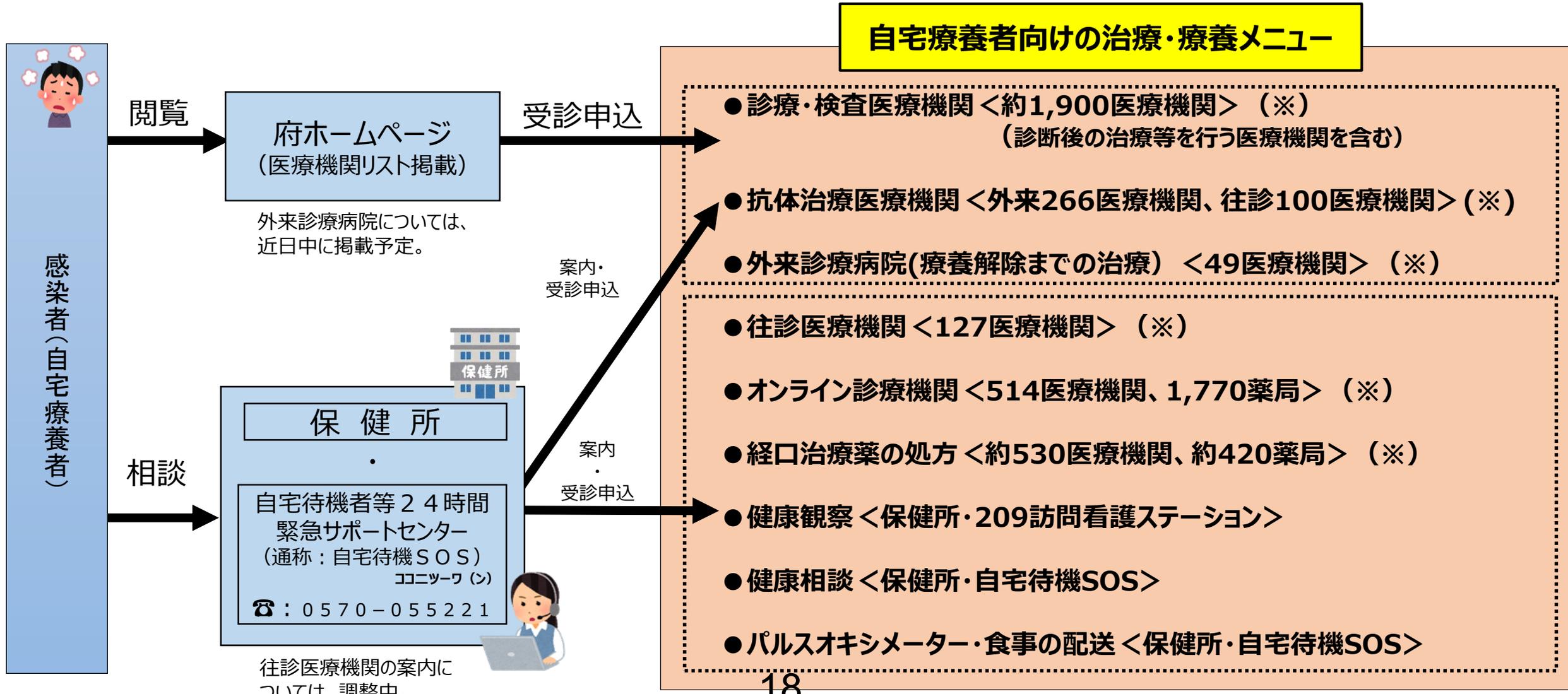


- ▶ 原則40歳未満で重症化リスクがなく、感染管理対策が可能な患者  
・同居家族に高齢者、免疫不全等要配慮者、医療・介護従事者がいる場合は宿泊療養も可

自宅療養者への  
支援強化

# 自宅療養者への支援強化について

◆ オミクロン株の感染拡大を踏まえ、今後、増加することが見込まれる自宅療養者が確実に治療療養にアクセスできるよう体制を確保。



18  
※上記のそれぞれの取組について、重複する医療機関・薬局あり。

# オミクロン株患者等の退院・解除等に関する課題について

## 1. 陽性者（オミクロン株患者等）の入退院の取り扱いについて

	国通知での取り扱い	府における対応・課題
入院・療養について	・オミクロン株患者及びL452R陰性患者については入院とされているところ、自宅等の療養体制が整った自治体における感染急拡大時の対応（以下、「感染急拡大時対応」として、無症状者・軽症者については、宿泊療養・自宅療養として差し支えない。	・感染急拡大時対応として、オミクロン株患者等の無症状・軽症者等は宿泊・自宅療養（1月5日～。1月7日に入院・宿泊の対象見直し）
退院・解除基準について	・PCR検査等での陰性確認が必要とされていたが、ワクチン接種が完了した者については、従来の通知に基づき対応。 （発症日から10日間経過し、かつ、症状軽快後72時間経過した場合など） ◀根拠▶国立感染症研究所「2回ワクチン接種14日以上経過者で無症状者・軽症者においては発症又は診断10日後以降に感染性ウイルスを排出している可能性は低いことが示唆。」	・PCR検査等での陰性確認は <u>自宅・宿泊療養における過大な負担となり、入院長期化による医療ひっ迫につながる。</u>

要望

ワクチン未接種者についても感染性に関するエビデンスを早期に示し、従来通りの退院解除とできるように示すべき。

## 2. オミクロン株患者及びL452R陰性患者の濃厚接触者の取り扱いについて

	国通知での取り扱い	府における対応・課題
待機について	・オミクロン株患者及びL452R陰性患者の濃厚接触者については宿泊施設滞在を求めるとされているところ、感染急拡大時対応として、自宅等での待機に切替えることが可能。	・感染急拡大時対応として、オミクロン株患者等の濃厚接触者は自宅待機（1月5日～。一部、保健所長判断で宿泊での待機も可）
検査実施や解除基準について	・3、6、10日目を目安に検査実施、14日間経過後に自宅・宿泊療養解除とされているが、感染急拡大時対応では従来の積極的疫学調査実施要領（初回検査以降は無症状者は検査対象とならない）に基づき実施して差し支えない。	・濃厚接触者への検査については当面、行う予定。 ・従前より待機期間14日間は陽性者の退院解除基準との矛盾が生じ、とりわけ医療・施設従事者が長期間待機となることで医療現場等に与える影響が大きい。

要望

オミクロン株の感染から発症までの期間に関するエビデンスを示すことなどにより、14日間の待機期間を短縮されたい。

## 4 入院・療養の状況

# 入院・療養状況（1月12日時点）

		重症病床	軽症中等症病床	宿泊療養施設
確保計画	フェーズ1	170床	1,300床	800室
	フェーズ2	240床	2,050床	1,600室
	フェーズ3	330床	2,400床	2,400室
	フェーズ4	420床（非常事態）	2,700床	4,000室
	フェーズ5	610床（災害級非常事態）	3,100床（災害級非常事態）	6,000室
	フェーズ6	—	—	8,500室
	フェーズ7	—	—	10,000室（災害級非常事態）
確保数等		確保数612床	確保数3,110床 ※1	9,604室
入院・療養者数 （別途、自宅療養2,767人）		6人	616人	1,462人
使用率		<b>1.0%</b> (6/612)	<b>19.8%</b> (616/3,110)	<b>15.2%</b> (1,462/9,604)
運用率		<b>2.9%</b> (6/205)	<b>27.6%</b> (616/2,232)	<b>29.7%</b> (1,462/4,922 ※2)

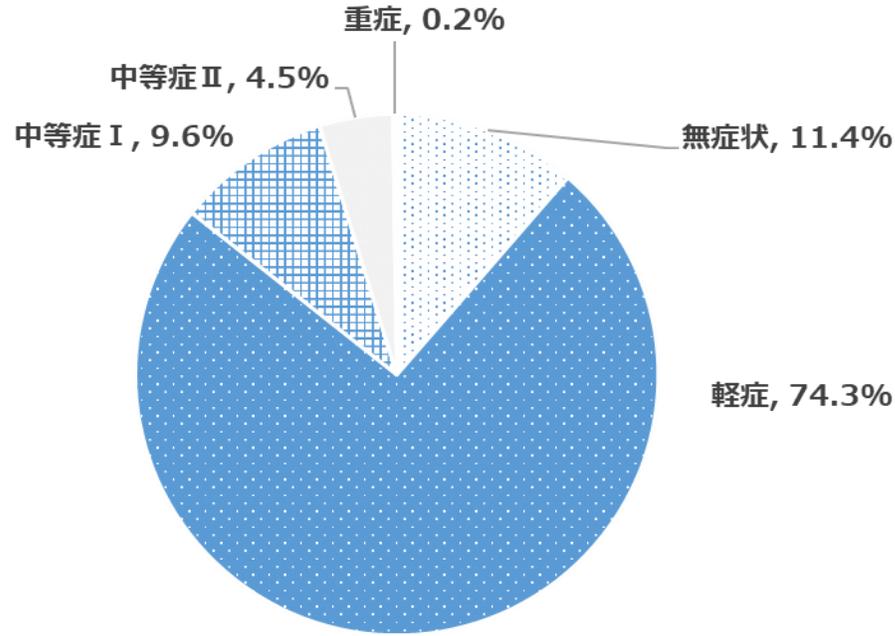
※1 1月6日付で軽症中等症病床について、フェーズ1からフェーズ4への運用移行を医療機関に要請

※2 別途、オミクロン株濃厚接触者用専用施設として1,548室運用

# 第六波における入院患者の入院調整時の患者の症状

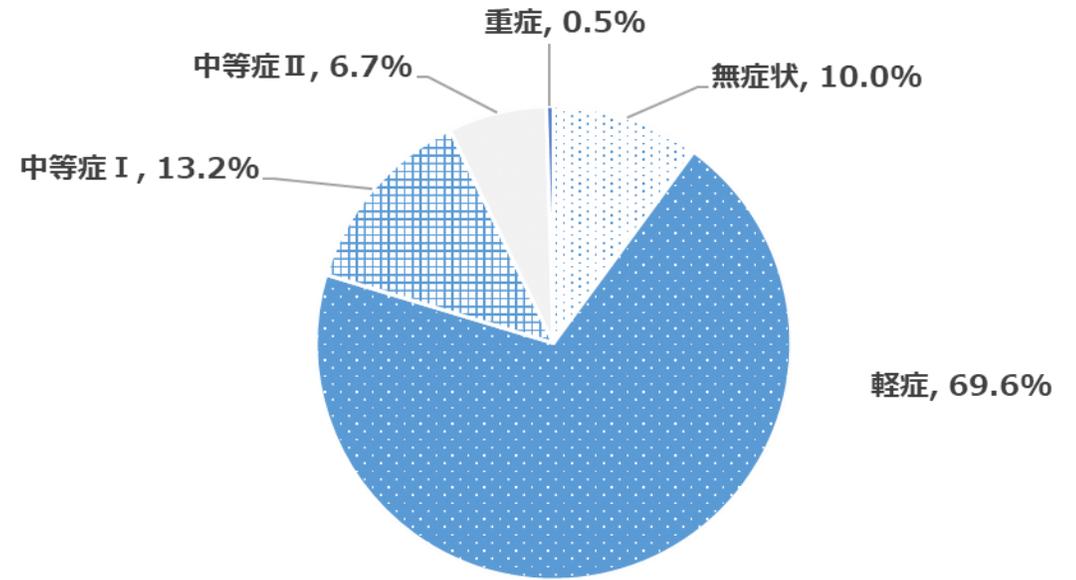
◆ 入院調整時患者の症状として、軽症・無症状が全体の約85%（入院治療対象の見直し後は約8割）。酸素投与を要する中等症Ⅱ以上も一定割合発生。

第六波における入院調整時患者症状 (R3.12.21~R4.1.11)



無症状	軽症	中等症Ⅰ	中等症Ⅱ	重症	合計
95	622	80	38	2	837

第六波における入院調整時患者症状 (R4.1.6~1.11)



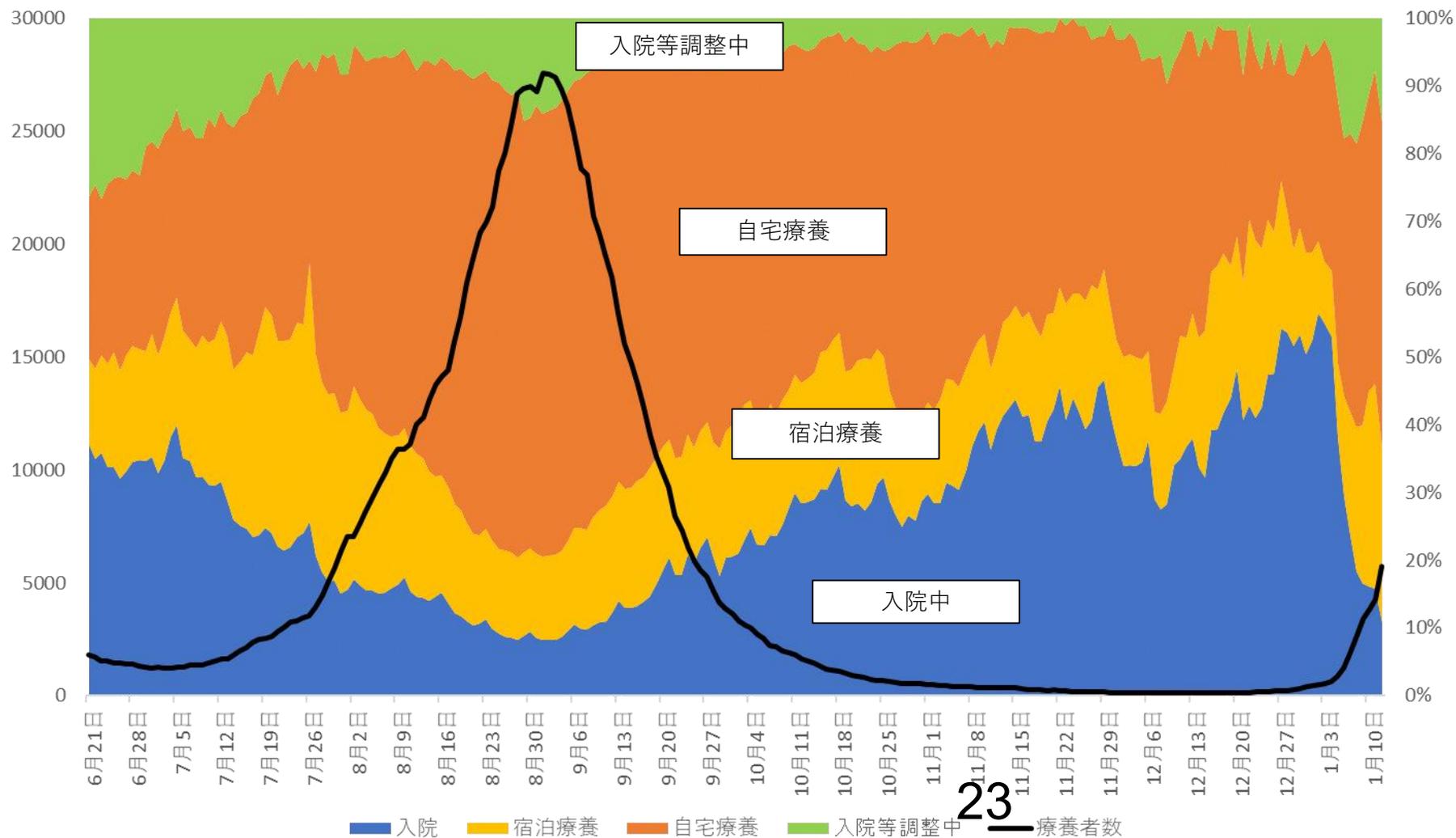
無症状	軽症	中等症Ⅰ	中等症Ⅱ	重症	合計
42	291	55	28	2	418

※ 1月5日までは、国方針に基づき、オミクロン株患者及びL452R陰性の患者は全員入院対応としていたこと、デルタ株患者も含まれていることなど、上記データをもってオミクロン株の特性とは言えないことに注意。

※ 上記データは入院調整時の患者の症状であり、入院後に症状が変化している可能性がある。

# 入院・療養状況（1月12日時点）

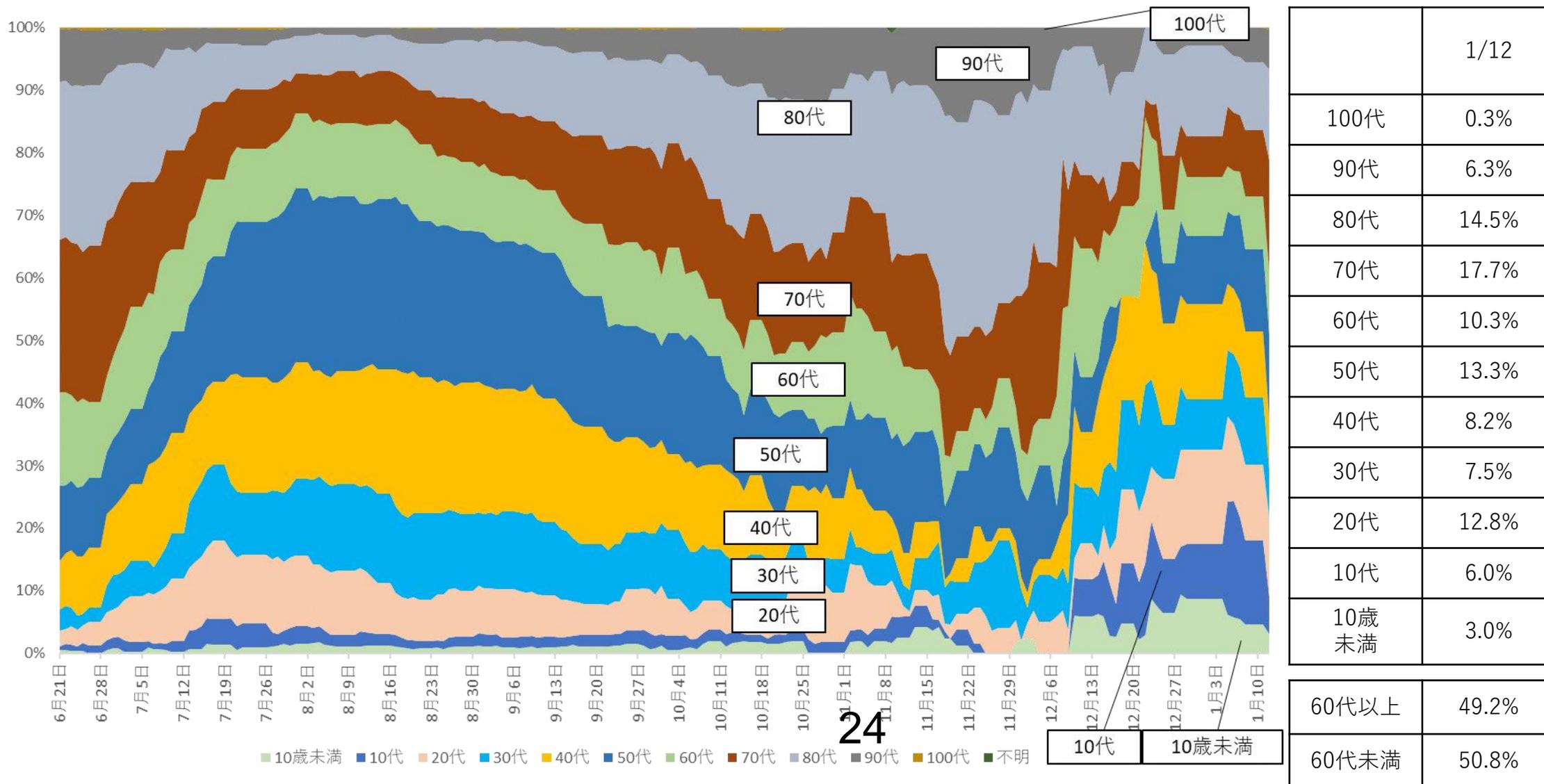
◆ 1月5日に患者の全員入院対応の見直し、1月7日に入院・宿泊療養対象の見直しを行ったことから、1月5日以降、全療養者数に占める入院患者の割合は減少し、宿泊・自宅療養者数が増加。



	1/12
入院等調整中	15.2%
自宅療養	48.3%
宿泊療養	25.5%
入院中	10.9%
療養者数	5,723人

# 軽症中等症受入医療機関における入院患者数の年代別割合（1月12日時点）

◆ 国方針に基づき、オミクロン株患者及びL452R陰性の患者は全員入院対応としていたことから、12月は若年層も含めて入院。（その後、1月5日に急拡大を踏まえ、府において全員入院方針を見直し。）

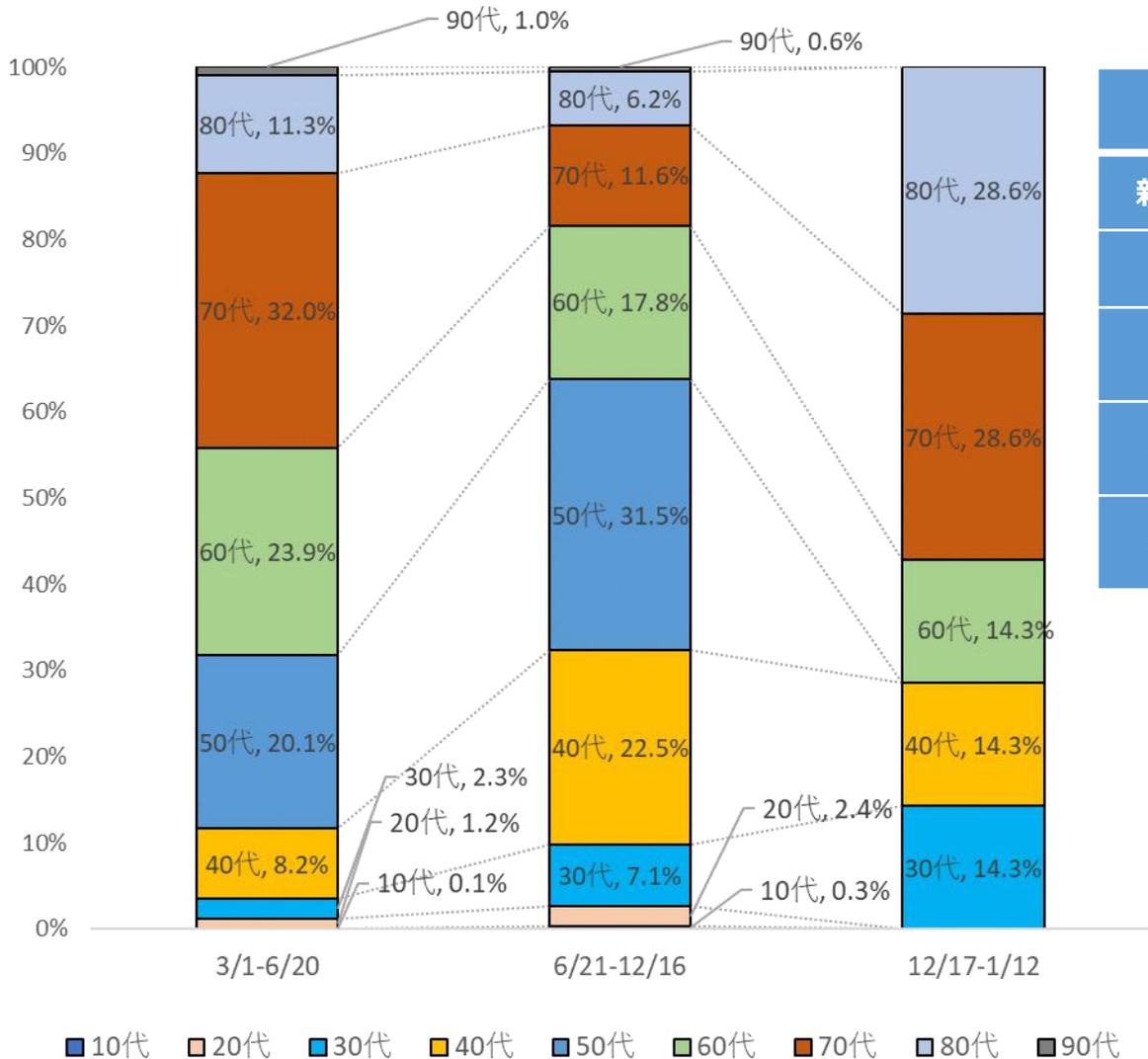


# 年代別新規重症者の内訳（公表日別）（1月12日時点）

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者（4/6～7/12）や他府県で受け入れている重症者（4/22～5/10）を含む。

◆ 第六波については、事例数が少ないことから分析が困難であるが、現時点、7人中5人が60代以上。

※100代の新規重症者は0名

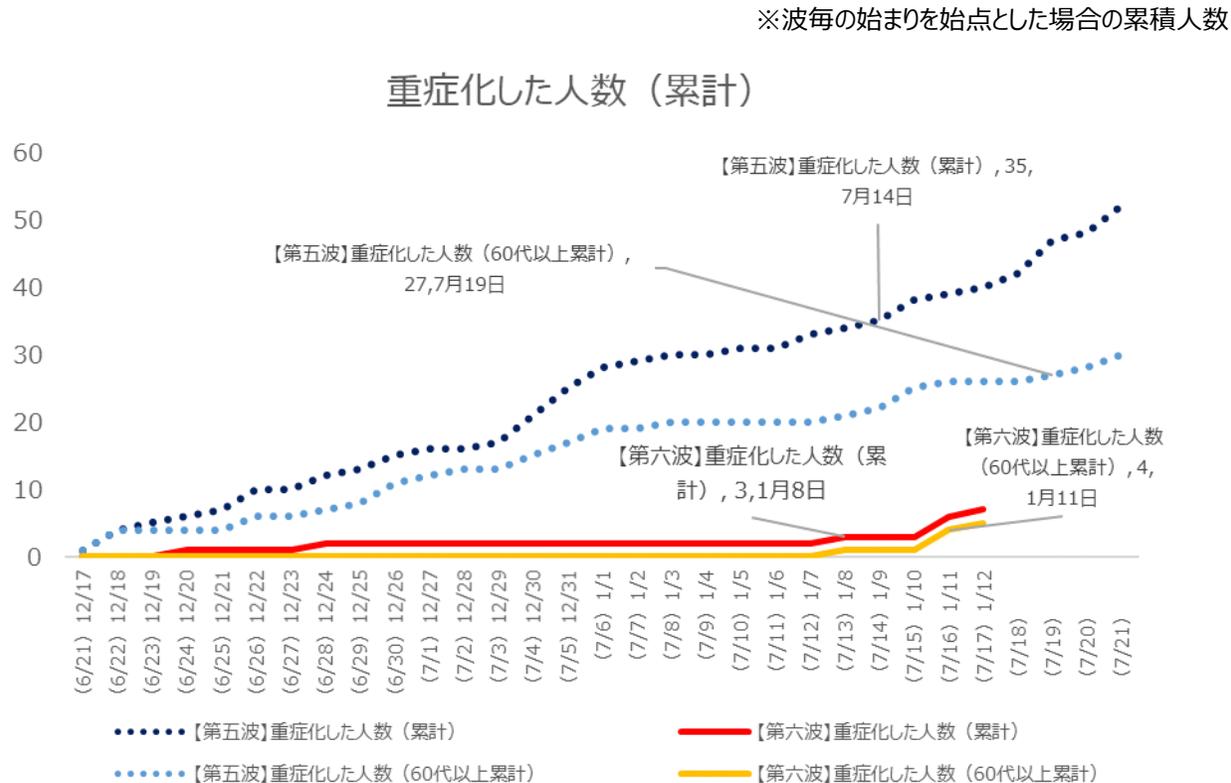
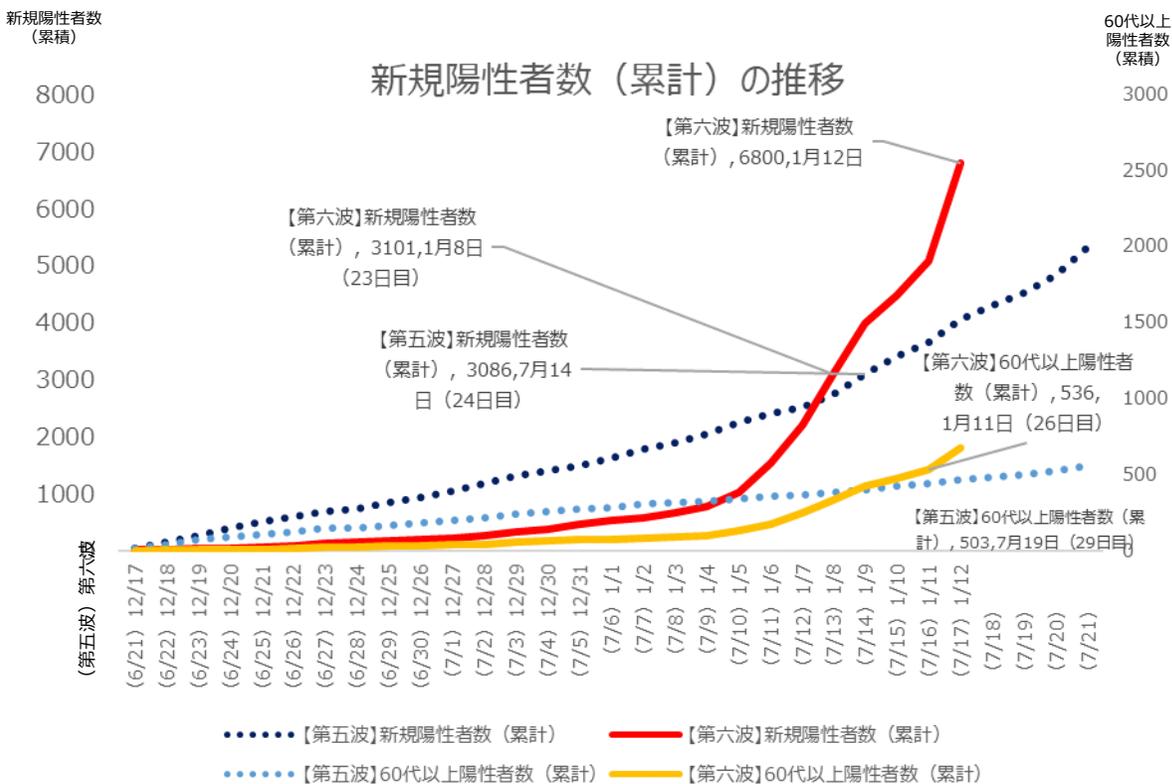


	第四波 (R3.3/1～6/20)	第五波 (R3.6/21～12/16)	第六波 (R3.12/17～R4.1.12時点)
新規陽性者数累計	55,318人	100,891人	6,800人
新規重症者数	1,735人	1,024人	7人
30代以下	61人 (3.5%)	101人 (9.9%)	1人 (14.3%)
40・50代の割合	491人 (28.3%)	553人 (54.0%)	1人 (14.3%)
60代以上の割合	1,183人 (68.2%)	370人 (36.1%)	5人 (71.4%)

※第六波の各年代の割合は、1月12日時点までの新規重症者数に基づく。今後、新規重症者の推移により変動。

# 【第五波及び第六波】新規陽性者数（累計）と重症化した人数（累計）の推移

- 新規陽性者数（累計）が3000人超過した時点での重症者数は、第五波が35人に対し、第六波は3人。
- また、60代以上新規陽性者数（累計）が500人超過した時点での重症者数は、第五波が27人に対し、第六波は4人。ただし、第六波は第五波と比較して短期間で感染が急拡大したことから、今後、重症者が増加する可能性がある。



	新規陽性者数（累計） 3000人超過	左記時点での重症者数（累計）	60代以上新規陽性者数（累計） 500人超過	左記時点での60代以上の重症者数（累計）
第五波	7月14日（24日間）	35人	7月19日（29日間）	27人
第六波	1月8日（23日間）	<b>26</b> （※）	1月11日（26日間）	4人（※）

※1月12日時点。第六波は第五波と比較して短期間で感染が急拡大したことから、今後、重症者が増加する可能性あり。 26